

竹中技術研究所リニューアルにおける環境・設備計画と実施

[推薦文]

本業績は、1993年に竣工した建設会社の技術研究所におけるリニューアルプロジェクトである。時代の趨勢を鑑み、研究分野別に研究員が「集中」することに特化したゾーニングから、研究員の「交流」を促すゾーニングへの変更に合わせて改修を契機として、多くの要素技術と統合技術を導入し、その効果を確認している。

本業績の主たる評価点は、以下の通りである。

- 1) 中庭に屋根をかけて誕生した吹き抜けを有する執務空間に面する各フロアにおいて、1階に床吹出空調、2、3階に調湿外気処理ユニットを併用した放射空調を採用するなど、空間特性にあった空調方式を採用し、改修前に対して上下温度差の低減など温熱環境を大幅に改善している。さらに一部にタスク・アンビエント空調を取り入れることにより、利用者の温冷感評価を向上させている。
- 2) 吹き抜け空間に創出された交流の場を含め、ABWによる知的生産性向上を目的とした空間が各所に構成され、それを高度に活用するための「位置・環境情報見える化システム」が導入されている。これにより、利用者が空間的、環境的に好みの場所を選択することが可能となっている。また、継続した執務者調査を実施し、課題の抽出と改善活動により、執務者の利用時満足度が時系列で向上している状況が確認され、改修前は交流の少なかった他部門間交流が大幅に促進されている。
- 3) 「CASBEE-ウェルネスオフィス」の第三者認証でSランク、外構部の「調べの森」に対して「SITES」のゴールド認証を取得する等、ウェルネス性向上の取組みを内外に発信している。また、新設の吹き抜け部の自然採光をルーバーのAI制御により高度に実現する等、ウェルネス性向上とともに省エネルギーに対しても配慮がなされている。

コロナ禍により、働き方が強制的に変容されつつある社会環境において、安全性や快適性を確保しつつ、知的生産性を向上させるウェルネス化があらゆるオフィスにおける課題となっている。本業績は、このウェルネス向上を内装計画によるABW実践に留まらず、中庭の内部化という大掛かりな改修計画を中心とした多様な空間創出により実現している。また、多様で連続する空間に対応して、空調設備計画、照明設備計画、情報設備計画を上手く連動、統合させ、使い勝手の向上とともに利用者満足度向上と交流促進を実現している。設備技術として斬新な技術・装備が開発・導入されている訳ではないが、「環境」形成と「装備」の活用を、「人」の交流と「活動」の向上を目的として導入・制御され、フィードバックをしながら最適化を進めているという点では先進的なリニューアル事例と評価できる。

よって、本業績は空気調和・衛生工学会特別賞リニューアル賞に値するものと認められる。